



# 首、背、腰、手足の痛みはまず当院へ 脊椎脊髄センター

脊椎を診る整形外科と脊髄を診る脳神経外科が一体となった脊椎脊髄センターは、全国的に見ても珍しい体制。様々な痛みを訴える人々に救いの手を差し伸べるセンターの取組みについてお話しください。

社会医療法人 信愛会 交野病院  
信愛会脊椎脊髄センター  
上田 茂雄先生

社会医療法人 信愛会 交野病院  
信愛会脊椎脊髄センター  
福田 美雪先生



## 西日本有数の実績を誇る 背骨に専門特化したスペシャリスト



手術中にCT撮影ができるO-arm。1mm、2mmの差が結果に影響するシビアな手術を、最新鋭の機器でサポートしている

### 初めに痛みの原因を精査

**上田** 脊椎脊髄センターに来られる患者さんは、手足や腰などの痛みと痺れ、動きにくさを訴える方。それらは患者さん自身もどの診療科に行けばいいのかわからなくて判断に迷うところだと思います。そんなざっくりとした症状を、原因は脊椎なのか、手なのか、肘なのか、肩なのか診断して、脊椎が原因なら私たちが診療し、そうでなければ当院の整形外科や神経内科とタイアップして診ていきます。

**福田** 当センターには脳神経内科と整形外科、両科の医師がいるのが強みです。ほとんどの病院では脳外科だけ、整形外科だけと単科で脊椎脊髄を診ることが多いですが、ここには6名の両科の常勤医師があり、6人の目で必ず確認して多系統の観点で診断し、皆で一緒に治療方針を考え、していきます。

### リハビリまで一貫したケア

**上田** 脊髄は脳から切れ目なくつながっているため、括りとしては脳神経外科が扱うべき疾患。しかし脊髄だけを治療しても、周りを囲む脊椎がずれたり曲がってはいけません。柱である脊椎と、中身である脊髄、両方に対して適切な診断・治療が必要という特殊な分野です。治療後にリハビリを行う際も、頑張り過ぎると骨がずれてしまうことも、反対に動かさないと筋肉が萎縮するため、両面からのケアが必要な点で特殊といえます。

**福田** 通常は急性期と回復期リハビリでは施設が異なり、転院となると主治医と離れてしまいます。しかし当院には回復期リハビリセンターがあり、シビアな病状で長期の集中的なトレーニングが必要な方でも手術からリハビリまで院内でケアが完了します。  
**上田** リハビリ期間に少しでも痺れの症状が戻ってきたら患者さんも不安になるでしょう。そんな時でも主治医がすぐにチェックして「大丈夫ですよ」と聞ければ安心できるはずです。



医学博士、日本脳神経外科学会専門医、日本脊髄外科学会指導医。「患者さんが抱える痛みに共感し、丁寧な説明をするよう心がけています」

### まずは薬が第一選択

**上田** 治療はできるだけ早く職場やご家庭に復帰できる方法を探ります。薬の処方ではほとんどのケースがよくなりまし、それでだめなときは超小型内視鏡による手術や高周波による焼灼などが選択できます。大きな手術もしていますが、それはあくまで例外です。

**福田** ここに来たらすぐに手術というわけはありません。リハビリや薬で様子を診る方が圧倒的に多いです。また他院で手術を受けて結果に満足されていない方が来られることも多いです。足の痺れだと腰を診るところが多いですが、首や胸の神経まで診ることは少ないと思います。ここでは全脊椎、場合によっては脳まで診て、症状に対してどこが悪さしているのか突き止めます。

**上田** 年齢を経れば加齢変性があるもので、1カ所だけが悪いということはないです。脊椎はいくつもの骨が連なっているので着眼点を背骨全体に広げ、診断漏れのないように診ています。そのためこれまで診断がつかなかった方も原因がわかり、安心されます。

### 最新鋭設備で手術も安心

**福田** 手術が必要な場合でも、優れた設備を揃えているので安心です。手術中にCT撮影ができるO-armという近畿に数台しかない機器を導入し、その画像をナビゲーションシステムに連動させてリアルタイムの画像を見ながら手術しています。

**上田** また低侵襲の手術にも取り組んでいます。頸椎の手術なら翌日には立つて歩けますし、1週間後には車の運転もできます。仕事や家庭に復帰したいというニーズに応じた治療を、たくさんオプションとして提供できます。  
**福田** 背骨の病気だけでなく、骨粗鬆症など病気の原因となる全体的な骨の状態まで診ています。比較的検査の待ち時間が少なく必要な検査はその日のうちに受けていただけますし、紹介状がなくても受診できるので気軽にお話しいただけます。



リハビリは低周波などの機械を使わず、セラピストの手が主体。これにより予後が大きく変わるとい